

	学校だより No.4 青森市立佃小学校 令和3年6月23日発行	全校児童数 466名 男子 223名 女子 243名
	◆教育目標◆ あかるく・かしこく・たくましく	

心と心を「ことば」でつなぐ

山田 彰利

先日の参観日には、多くの方にご来校いただきありがとうございました。教室内の密状態を防ぐことを目的に、お子さんごとに参観時間を指定させていただきました。いつもより少ない時間ではありましたが、新型コロナウイルス感染症への対策としてご理解いただけると幸いです。気になること、気が付かれたこと等、何かございましたら、遠慮なく学校までお申し付けください。

一方、市内での感染状況が落ち着いてきたことから、校内では、これまで自粛していた活動を少しずつ再開しています。間隔を空け人数を絞っての鍵盤ハーモニカ等の演奏、縦割り清掃活動、クラブ活動などです。今後も状況を見ながら、できることから進めていきたいと考えております。

*

*

*

「先生、〇〇さんがいすを蹴ってきました。」「先生、△△さんに背中をたたかれました。」

進級して三ヶ月弱、人間関係が構築されてくる今の時期に、子どもが血相を変えて訴えてくることがあります。「すわ、いじめ…」と危惧しながらも、こんなときは、まず当事者を呼んで事情を聞きます。すると、「通路にはみ出していたから、じゃまだと思って足でよせました。(決して『蹴った』とは言わない)」一応、まわりの子にも聞いてみます。やはり、事実らしい。そこで両者に問います。「どうすれば、よかったのかなあ。」

「△△さんに背中をたたかれた」事案は、相手が無意識のうちにぶつかった、そしてそのまま行ってしまった、といった場合が案外と多いようです。でも、やはり両者に問います。「どうすれば、よかったのかなあ。」じゃまになっていたら「ちょっとよけてくれる。」わざとではなくてもぶつかってしまったら「ごめんね。」その一言があれば、違っていたのではないのでしょうか。

自分の意に沿わなければすぐに手が上がる、足が出る…。言葉で伝えられず、実力行使。そんなお子さんが増えているという研究があります。「ムカつく」「キレル」といった言葉の出現と時を同じくして増えているというのです。

「ことば」を通して思いを伝える、自分を説明する、そういった社会的な能力(技術)～ソーシャルスキルと呼ばれています～を育てていくことが、今の子供たちにはとても大切なことなのだ。と改めて思っております。



本校では、子供たちにこうした「言葉で伝え合う力」を付けるため、授業の中で様々な話し合いの場を設けています。学級全体、小グループ、時にはペアで、自分の感じたこと・考えたことを伝え合えるよう、環境を整えたり指導の工夫をしたりしています。もちろん、コロナ禍のこうした状況ですので、限られた範囲での活動にはなりますが、その中で、主体的に考える力、対話の中で学びを深める力など、これからの社会を生きる上で大切な力を育てていければと考えております。

ご家庭でも、「聞く」ことを大切に、お子さんの「伝える言葉」を育ててくださればと思います。